千葉経済短期大学 商経科 経営情報専攻

千葉経済短大は昭和43年商経科として発足し，52年初等教育科を増設しました．また59年には2年制の別科として経営情報専修を設け，コンピュータを中心とした情報処理教育を行なってきました．そして昭和62年度より商経科の中で専攻分離を行ない，商経専攻（定員150名）に加え，別に経営情報専攻（定員50名）を設けることになりました．そこで本学で行なう情報処理関係のカリキュラムの概要を紹介いたします．各科目の相互関連性は関連構造図で系列別体系的に示されますがここでは省略し，各科目群の目標をカッコで示します．

●電子計算機概論Ⅰ，Ⅱ，OR概論，業務プログラム設計Ⅰ，Ⅱ（電子計算機基礎知識，現代的オフィス実態，情報処理技術基本概念等の把握）　●コンピュータオペレーション，COBOLⅠ，Ⅱ，FORTRAN（端末機操作，ホスト系言語の習得）　●会計アプリケーションⅡ，流通アプリケーション，生産アプリケーション（ホストコンピュータの経営面での利用形態，技法の習得）●システム設計論，業務システム設計，コンピュータコミュニケーション（ホストコンピュータ導入技術の習得）●ビジネスグラフィクス，OA演習，演習OR，会計アプリケーションⅠ（パソコンによるBASICおよび簡易言語と，その経営，経営科学への応用演習）　●ワープロ演習，文章技法（WP操作の習得）

特に会計，生産，流通アプリケーションでは，現行業務のアプリケーション・システム理解のため，実存のプログラムソフトを使っての事例研究や，必要に応じ設計，プログラミングを行なうなどして，具体的経営業務へのコンピュータ利用の考え方や方法を把握させています．これらの科目は実業界の専門技術者に講師をお願いしています．なおグループ研究という科目を設け，学生は数名のグループに分れ，適当なテーマを決め課題研究を行なうことを必修としています．そこではグループ内各人が共同作業で仕事を分担し，協調しながらチームワークで1つのシステムを初めから終りまで完成させています．これには今まで学んだことをまとめる意味と，卒業後実社会で行なう業務の予行演習の意味をもたせています．

本学の教育用機械は次のとおりです．ACOS 410モデル20，それに直結したワークステーション12台，N6300モデル55ターミナルコントローラ3台とそのワークステーション11台，パソコンNEC5200モデル05，40台，ワープロNWP—13Nモデル2，25台です．なおN6300のワークステーションはACOS 410の端末として，直結ワークステーションと同等に用いています．

本学では実習科目が多く，しかも全員が機械操作できるよう小クラスに分けているので時間割編成に苦心しているようです．コンピュータ教育に直接関係し，グループ研究を担当している専任教員は7名（うちOR学会員3名）で，別に助手3名ですが，ほとんどが30代以下の若手研究者で，かつ大型コンピュータを十分駆使した経験者となっています．コンピュータのハードやソフトの進歩は激しいので，基礎知識と技術の習得を基盤とし新しい進歩に即応できる弾力性と思考力が大切だと思いますが，限られた時間でこれらを配慮した教育はむずかしい問題だと思います．本学の情報教育の経験は3年で，試行過程にあるともいえますが，他校の方法等も今後参考にしたいと思います．　（玉井康雄）

—— × —— × —— × —— × —— × —— × —— × ——

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．